

Ⅸ 実施に向けた考え方

1 全体の方針

史跡盛岡城跡内の植栽管理の基本的な考え方について、植栽部会専門部会委員と協議を重ねたところ多くの意見と指導があり、次のような方針とした。

(1) 基本理念・基本方針

- ア 今日までの経緯を踏まえ、歴史や学習とか大局的な見地から市民に親しまれる方針とする。
- イ 文化財保護と公園内の樹木管理は相反するものではなく、共存する構成とし、市民に理解を得られるような方針とする。
- ウ 市民目線に則し、地域と一帯となった方針とし、幅のある方針とする。
- エ 公園全体と周辺地区を考慮しながら、史跡と都市空間における貴重な緑地帯を大切にす方針とする。
- オ 史跡を保全しながら、公園の安全性や快適性の機能を兼ね備えた方針とする。

(2) 樹木管理の考え方

- ア 人命、財産、史跡、修景、景観、眺望を重視した管理とする。
- イ 平成 21 年度の樹木調査の補足調査を適時進める。

(3) 地区の特色

- ア 本丸のマツ、二ノ丸・三ノ丸のモミジ、淡路丸のソメイヨシノ、鉛蔵跡のウメ、本蔵跡・孫蔵跡・新本蔵のマツやモミジなど地区ごとの特色を生かし、かつ季節感を大切にする空間構成とし、詳細は各地区の整備事業の実施設計時に検討する。

2 文化財の保護

(1) 石垣の保全

- ア 国指定史跡の石垣等に変位を与え崩壊の原因や要因にある樹木は、文化庁のガイドラインに準拠して、優先的に整理を進める。
- イ 原則として石垣から 3 m 以内には植栽しないこととし、樹種によってこれ以上の距離を保つ。
- ウ 伐採を予定する樹木は、目的や効果など市民に丁寧な説明を行いながら進める。

(2) 遺構の保護

- ア 歴史と史跡の保護を土台として都市公園としての機能も大切にする。
- イ 本丸のモミジ類の取扱いは遺構の保護を前提として多くの意見を求める。
- ウ 失われたならば二度と戻らない史跡の保護を優先する。

3 樹木個々の管理

(1) 幹周りが3 m以上に樹木

- ア 危険度を勘案して、剪定または伐採を行う。
- イ 史跡内のケヤキは、今後剪定後の維持ができず、景観上支障となる樹木は伐採を検討する。

(2) 生育数が少ない樹木

- ア 希少な樹木は、盛岡市の天然記念物指定のケンポナシと国天然記念物指定と同種のシダレカツラと同種の樹木とし、これ以外は保護の対象としない。また本質的価値を構成する枢要の諸要素の保存管理に支障とならない限り除去は行わない。

(3) 移入された樹木

- ア 石垣に囲まれた本丸・二ノ丸・三ノ丸・淡路丸・榊山稻荷曲輪に生育する移入された樹木は撤去する。また石垣に囲まれた地区の外周部においては、史跡整備や遺構保護上から支障がない限り、強制的に排除しないが、保護の対象ともせず、伐採後は更新しないものとし史跡や公園としての質の向上を図る。

(4) 保護樹木

- ア 市民に親しまれているサクラ・ウメ、モミジは保護の対象として更新を図る。ただし、本丸は史跡としての整備を重点的に行う地区であることから、発掘調査の成果を踏まえながら、実施設計段階において検討する。

(5) 標本木・副標本木

- ア 本質的価値を構成する枢要な諸要素に支障とならない限り、適宜保全する。

(6) 危険を及ぼす可能性のある樹木

- ア 危険度を考慮して、影響のある樹木は優先的に剪定と伐採を行う。
- イ 剪定の場合、その後の樹形の維持が困難な樹木は伐採を行う。

4 修景・景観・眺望に関わる樹木

(1) 修景・景観・眺望

- ア 登城ルート of 修景整備を行う。
- イ 鶴ヶ池と亀ヶ池の水質浄化に努めるとともに、法面についても遺構保護を前提としながら水質の汚れの原因とならないような管理を行う。
- ウ 史跡の西側の道路や菜園通や上ノ橋～下ノ橋間は景観重要公共施設としての位置づけを盛岡市の景観計画全体の中で位置付ける。

(2) 優先される植栽管理

- ア 公園機能の維持と向上を図り、危険除去に努めながら、史跡と景観の保全を図る。

5 実施に向けた取り組み

(1) 日常管理と樹木の剪定・伐採

史跡を含む公園内の日常管理は、平成 19 年度から指定管理者が行っているが、委託者においても、地震や豪雨などの自然災害時はもとより、適切な巡視を行うことで、樹木が市民の生命・財産、史跡へ与える影響の把握に努める。

樹木が市民の生命・財産、史跡へ与える影響を確認した結果、緊急的に剪定等により対応するものとし、特に中・高木の伐採を必要とする場合には市民に周知し、伐採するに至る明確な根拠の説明を行う。なお、公園管理者が人命や財産に影響を及ぼし、緊急を要すると判断された場合はこの限りではない。

(2) 市民への周知と事業期間

計画的な樹木の伐採についての市民への周知・説明に係る具体的な手法として、市広報誌やホームページ、さらには対象とする樹木に看板設置等で樹木の選定理由や実施時期等の周知を図るとともに、事案の状況に応じて現地において説明会を開催するものとする。なお、植栽管理基本計画で定める内容は、大概、第 1 期整備期間(平成 25～34 年度)・第 2 期整備期間(平成 35～44 年度)内の実施期間とする。

(3) 史跡や都市公園としての樹木のあり方

盛岡城跡は、江戸時代には盛岡藩の藩庁や南部家の生活空間として機能してきたが、近代以降は市民に解放されパブリックな空間として現代に引き継がれている。

本書では、江戸時代から生育する樹木とともに、明治期以降に公園整備の一環として植えられてきた史跡内の約 3 千本の樹木が公園の来園者に危険を及ぼし、また石垣などの主な遺構の保存に影響を及ぼしている現状などの今日的課題が生じていることから、樹木の適切な管理基準を設けることを目的としたものである。

盛岡城跡の成り立ちは自然公園ではなく、あくまで防御性や居住性を熟慮しての計画された造園設計の延長にあるが、これまでの公園内の植栽計画においては、動物園や植物園的な多くの要素を取り込んだ経緯や樹木伐採に対する極度の禁止観念もあって、次世代に引き継ぐべき国指定史跡として石垣などの遺構の保護が一部で懸念される事態が生じてきた。このことから樹木のあり方と公園内の安全性や史跡の保護などのバランスを図る必要性が生じている。盛岡城跡を含む公園内は、市民にとって日常の暮らしの中での都市空間における貴重な緑地帯であるとともに盛岡市を訪れる観光客にとっては、盛岡のまちの成り立ちを知り、現在の盛岡市の特質を考える上で欠かせない貴重な場となっている。また、現代社会にあって、快適性や安全性は最優先にしなければならないものの、今日的なニーズによって次世代に引き継ぐべき遺産を磨り潰すことがあってはならない貴重な財産である。

本書を基準としながら歴史遺産としての価値や市民に親しまれる質の高い公園とし、今以上に魅力を高めて、お城を中心としたまちづくりに資するよう、樹木の適切な管理を含めた環境の整備を進めこととし、具体的な実施は十分な議論を経て行う。

表 23 盛岡城跡の樹木分類(1)

(現在使われている植物分類学の新所見：竹原明秀委員による)

番号	現在の標準和名 ylist・Glist	科名	生育	野生種	園芸種	岩手県 に生育	岩手県以 外に生育	海外に 生育	主な 原産地
1	アオキ	アオキ科	落葉	●	●	●	●		
2	アオギリ	アオイ科	落葉	●			●	●	伊豆以西
3	アカマツ	マツ科	常緑	●	●	●	●	●	
4	マルバマンサク	マンサク科	落葉	●	●		●		日本海側
5	アジサイ	アジサイ科	落葉		●				—
6	アズキナシ	バラ科	落葉	●		●	●	●	
7	アセビ	ツツジ科	常緑	●			●	●	宮城以南
8	アブラチャン	クスノキ科	落葉	●		●	●		
9	アメリカザイフリボク	バラ科	落葉	●	●			●	北米
10	イタヤカエデ	ムクロジ科	落葉	●	●	●	●		
11	イチイ	イチイ科	常緑	●		●	●	●	
12	イチジク	クワ科	落葉	●	●			●	西アジア
13	イチヨウ	イチヨウ科	落葉	●				●	中国
14	イヌツゲ	モチノキ科	常緑	●		●	●	●	
15	イボタノキ	モクセイ科	落葉	●		●	●	●	
16	イロハモミジ	ムクロジ科	落葉	●	●		●	●	福島以南
17	ウツギ	アジサイ科	落葉	●	●	●	●		
18	ウメ	バラ科	落葉	●	●			●	中国
19	ウメモドキ	モチノキ科	落葉	●		●	●		
20	ウラジロモミ	マツ科	常緑	●			●		関東以西
21	エゴノキ	エゴノキ科	落葉	●		●	●	●	
22	エゾエノキ	アサ科	落葉	●		●	●	●	
23	エゾムラサキツツジ	ツツジ科	落葉	●			●	●	北海道
24	エドヒガン	バラ科	落葉	●		●	●	●	
25	エンジュ	マメ科	落葉	●				●	中国
26	オオモミジ	ムクロジ科	落葉	●	●	●	●		
27	カエデ類	ムクロジ科	落葉		●				—
28	ガクアジサイ	アジサイ科	落葉	●	●		●		関東
29	カクレミノ	ウコギ科	常緑	●			●	●	関東以西
30	カシワ	ブナ科	落葉	●		●	●	●	
31	カスミザクラ	バラ科	落葉	●		●	●		
32	カツラ	カツラ科	落葉	●		●	●		
33	ガマズミ	レンプクソウ科	落葉	●		●	●		
34	カマツカ	バラ科	落葉	●		●	●		
35	カヤ	イチイ科	常緑	●			●		宮城以南
36	カラタチ	ミカン科	落葉	●				●	中国
37	キササゲ	ノウゼンカズラ科	落葉	●				●	中国
38	キタゴヨウ	マツ科	常緑	●		●	●		
39	キハダ	ミカン科	落葉	●		●	●	●	

表 24 盛岡城跡の樹木分類(2)

(現在使われている植物分類学の最新見：竹原明秀委員による)

40	キャラボク	イチイ科	常緑	●	●		●		山形以南？
41	キリ	キリ科	落葉	●				●	中国
42	キンモクセイ	モクセイ科	常緑	●				●	中国
43	クヌギ	ブナ科	落葉	●			●	●	福島以南
44	クマノミズキ	ミズキ科	落葉	●		●	●	●	
45	クリ	ブナ科	落葉	●	●	●	●	●	
46	クロマツ	マツ科	常緑	●	●		●		関東以西
47	ケヤキ	ニレ科	落葉	●		●	●	●	
48	ケンボナシ	クロウメモドキ科	落葉	●		●	●	●	
49	コウヤマキ	コウヤマキ科	常緑	●			●		福島以南
50	コゴメウツギ	バラ科	落葉	●		●	●	●	
51	コハウチワカエデ	ムクロジ科	落葉	●		●	●		
52	コブシ	モクレン科	落葉	●		●	●	●	
53	コマユミ	ニシキギ科	落葉	●		●	●	●	
54	コムラサキ	シソ科	落葉	●		●	●	●	
55	ゴヨウマツ	マツ科	常緑	●			●		関東以西
56	サイカチ	マメ科	落葉	●		●	●	●	
57	ザイフリボク	バラ科	落葉	●		●	●	●	
58	サクラ類	バラ科	落葉		●				—
59	サザンカ	ツバキ科	常緑	●	●		●		山口以南
60	サツキ	ツツジ科	常緑	●	●		●		神奈川以西
61	サラサドウダン	ツツジ科	落葉	●		●	●		
62	サルスベリ	ミソハギ科	落葉	●	●			●	中国
63	サワラ	ヒノキ科	常緑	●	●		●		関東以西？
64	サンザシ	バラ科	落葉	●	●			●	中国
65	サンシュユ	ミズキ科	落葉	●				●	朝鮮
66	サンショウ	ミカン科	落葉	●		●	●	●	
67	ウメの一品種	バラ科	落葉		●				—
68	シダレカツラ	カツラ科	落葉		●				—
69	イトザクラ	バラ科	落葉		●				—
70	カエデの一種	ムクロジ科	落葉		●				—
71	シダレヤナギ	ヤナギ科	落葉	●	●			●	中国
72	シノブヒバ	ヒノキ科	常緑		●				—
73	スギ	ヒノキ科	常緑	●		●	●		
74	スグリ	スグリ科	落葉	●			●		中部
75	ズミ	バラ科	落葉	●		●	●		
76	スモモ	バラ科	落葉	●	●			●	中国
77	ソメイヨシノ	バラ科	落葉		●				—
78	タケ類	イネ科	常緑		●				—

表 25 盛岡城跡の樹木分類(3)

(現在使われている植物分類学の新所見：竹原明秀委員による)									
79	タラヨウ	モチノキ科	常緑	●			●	●	中部以西
80	カマクラヒバ	ヒノキ科	常緑		●				—
81	チョウセンゴヨウ	マツ科	常緑	●			●	●	中部以西
82	ウメの一品種	バラ科	落葉		●				—
83	ツゲ	ツゲ科	常緑	●			●		関東以西
84	ツツジ類	ツツジ科	落葉		●				—
85	ヤブツバキ	ツバキ科	常緑	●	●	●	●	●	
86	ツリバナ	ニシキギ科	落葉	●		●	●	●	
87	テマリカンボク	レンブクソウ科	落葉		●				—
88	ドイツトウヒ	マツ科	常緑	●				●	欧州
89	ドウダンツツジ	ツツジ科	落葉	●	●		●	●	中部以西
90	トサミズキ	マンサク科	落葉	●			●		四国
91	トチノキ	ムクロジ科	落葉	●		●	●		
92	トドマツ	マツ科	常緑	●			●	●	北海道
93	ナツグミ	グミ科	落葉	●			●		関東
94	ナツツバキ	ツバキ科	落葉	●			●	●	福島以南
95	ナナカマド	バラ科	落葉	●		●	●	●	
96	ヒトツバタゴ	モクセイ科	落葉	●			●	●	中部
97	ニガキ	ニガキ科	落葉	●		●	●	●	
98	ニシキギ	ニシキギ科	落葉	●		●	●	●	
99	ニワトコ	レンブクソウ科	落葉	●		●	●		
100	ノムラカエデ	ムクロジ科	落葉		●				—
101	ノリウツギ	アジサイ科	落葉	●		●	●	●	
102	バイカウツギ	アジサイ科	落葉	●		●	●		
103	ハウチワカエデ	ムクロジ科	落葉	●		●	●		
104	ヤエベニシダレ	バラ科	落葉		●				—
105	ハギ類	マメ科	落葉		●				—
106	ハナカイドウ	バラ科	落葉	●	●			●	中国
107	オオアメリカキササゲ	ノウゼンカズラ科	落葉	●	●			●	北米
108	アメリカヤマボウシ	ミズキ科	落葉	●	●			●	北米
109	ハナモモ	バラ科	落葉	●	●			●	中国
110	バラ類	バラ科	落葉		●				—
111	ハリギリ	ウコギ科	落葉	●		●	●	●	
112	バンクスマツ	マツ科	常緑	●				●	北米
113	ヒノキ	ヒノキ科	常緑	●	●		●		福島以南
114	ヒノキアスナロ	ヒノキ科	常緑	●		●	●		
115	ヒメコマツ	マツ科	常緑	●			●		関東以西
116	ヒメコマツ	マツ科	常緑	●			●		関東以西
117	ヒメシャラ	ツバキ科	落葉	●			●		神奈川以西
118	イヌリンゴ	バラ科	落葉	●	●			●	中国

表 26 盛岡城跡の樹木分類(4)

(現在使われている植物分類学の新所見：竹原明秀委員による)

119	ヒュウガミズキ	マンサク科	落葉	●			●		中部以西
120	ヒヨクヒバ	ヒノキ科	常緑		●				—
121	ビワ	バラ科	常緑	●	●		●	●	中国
122	フジ	マメ科	落葉	●	●	●	●		
123	フヨウ	アオイ科	落葉	●	●			●	中国
124	ブルーベリー類	ツツジ科	落葉		●				北米
125	セイヨウサンザシ	バラ科	落葉	●	●			●	欧州
126	ヤエベニシダレ	バラ科	落葉		●				—
127	ボケ	バラ科	落葉	●	●			●	中国
128	ポポー	バンレイシ科	落葉	●	●			●	北米
129	マサキ	ニシキギ科	常緑	●		●	●	●	
130	マツ類	マツ科	常緑		●				—
131	マメイヌツゲ	モチノキ科	常緑		●	●	●	●	
132	マンサク	マンサク科	落葉	●			●		関東以西
133	ミズキ	ミズキ科	落葉	●		●	●	●	
134	ムクゲ	アオイ科	落葉	●	●			●	中国
135	モクゲンジ	ムクロジ科	落葉	●			●	●	中国・朝鮮
136	モクセイ	モクセイ科	常緑	●				●	中国
137	シモクレン	モクレン科	落葉	●	●			●	中国
138	カエデ類	ムクロジ科	落葉		●				—
139	モモ	バラ科	落葉	●	●			●	中国
140	サトザクラ	バラ科	落葉		●				—
141	ヤナギの一種	ヤナギ科	落葉		●				—
142	ヤマザクラ	バラ科	落葉	●			●		宮城以南
143	ヤマツツジ	ツツジ科	落葉	●		●	●		
144	ヤマナシ	バラ科	落葉	●	●			●	中国
145	ヤマブキ	バラ科	落葉	●	●	●	●	●	
146	ヤマボウシ	ミズキ科	落葉	●		●	●	●	
147	ヤマモミジ	ムクロジ科	落葉	●	●	●	●		
148	ユキヤナギ	バラ科	落葉	●	●		●	●	中国
149	ユズリハ	ユズリハ科	常緑	●			●	●	福島以南
150	ムラサキハシドイ	モクセイ科	落葉	●	●			●	欧州
151	リュウキュウツツジ	ツツジ科	常緑		●				—
152	アメリカハナノキ	ムクロジ科	落葉	●				●	北米
153	レンギョウ	モクセイ科	落葉	●				●	中国
154	レンゲツツジ	ツツジ科	落葉	●		●	●		
155	ロウバイ	ロウバイ科	落葉	●	●			●	中国
156	ヤツデ	ウコギ科	常緑	●	●		●	●	関東以西